



高知県立須崎工業高等学校
教諭 押岡 禎之

1 はじめに



高知県立須崎工業高等学校

本校は高知県中心部から西へ約 50km、車で約 1 時間移動した須崎市に在り、須崎湾を一望できる標高約 40 m の高台に立地しており、南海トラフ地震発生時には高さ 25 m の津波が発生すると想定されています。災害発生時は避難場所及び避難所に指定されており、学校周辺の地域避難者は最大で 2,000 人と推測されています。



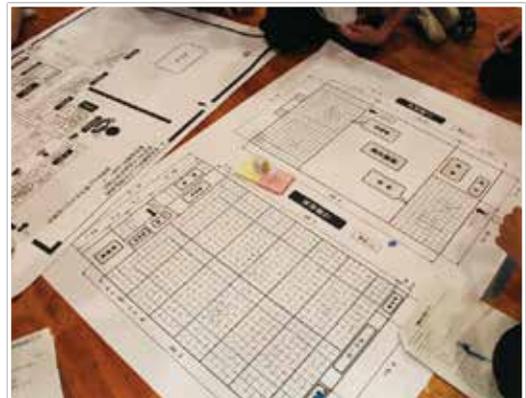
HUG の実施風景

平成 31 年 4 月から「高知県立須崎総合高等学校」に校名が変わり、新しく体育館も建設され、災害時には避難所として開設されます。そのため、平成 28 年度より本校独自の避難所運営ゲーム【HUG】に取り組み、避難者の生活支援ができるよう、防災学習活動を実施しています。また、工業高校の特色を生かした防災ものづくりにも継続して取り組んでいます。

2 ものづくり

今後、高い確率で起こることが想定される南海トラフ地震や、その地震によって発生するであろう津波に備えるとともに、津波避難場所に指定されている本校の状況において、生徒、教職員には自分自身を守る意識を高めることが必要です。そして、自らだけでなく、避難してきた方々を支援する意識や態度の育成が望まれます。

課題研究において防災に関するものづくりを行い、避難訓練の際、市行政や地



HUG で使用した模造紙



シニアカーと車椅子の連結

域との連携を図り、製作物を活用しながらより実践的な取組を行ってきました。また、平成28年度高知県黒潮町で開催されました「世界津波の日」高校生サミット in 黒潮に参加し、国内の多くの高校生はもとより、海外の高校生との交流もできたことで防災教育の大切さや意識向上が更に図られました。使用する側の立場に立ち、簡単に組み立てることができる、使いやすい、片付けやすい、処理しやすい等、ユニバーサルデザインを取り入れた「ものづくり」を防災教育の中を含めることで、技術・技能の向上に加え、ものづくり防災教育活動の推進につながりました。

3 人づくり

「防災意識の高揚と実践力の育成」「自らが判断し行動できる力の育成」「防災リーダーとなりうる資質の育成」を目標に、平成26年度から生徒会が中心となり、全国防災ジュニアリーダー育成合宿へ参加し、全国から集まった児童生徒と防災リーダーとしての役割を担う学習を行ってきました。毎年、参加生徒は全校生徒対象に報告会を開き、防災意識を高める



簡易トイレ

充実した研修内容を伝えていきます。また、昨年度から各クラス役員に防災委員を置き、継続した取組により、防災に対する意識向上をすすめ、積極的に自ら進んで考え行動できるようになりました。

4 おわりに

地域の避難場所、避難所としての役割は大きく、市行政はもとより地元自治体や地域住民との連携は必要不可欠です。本校が推進役となり、震災後の避難生活も視野に入れ、具体性のあるものにしたいと考えてきました。

工業高校として特色あるものづくりを通じた技術・技能の向上は勿論のこと、地域の方々の要望に応える「想い」や「絆」は、年々深まってきていると思います。今後も継続して「防災ものづくり」を実施し、地域とともに情報発信に努めていきたいと考えています。